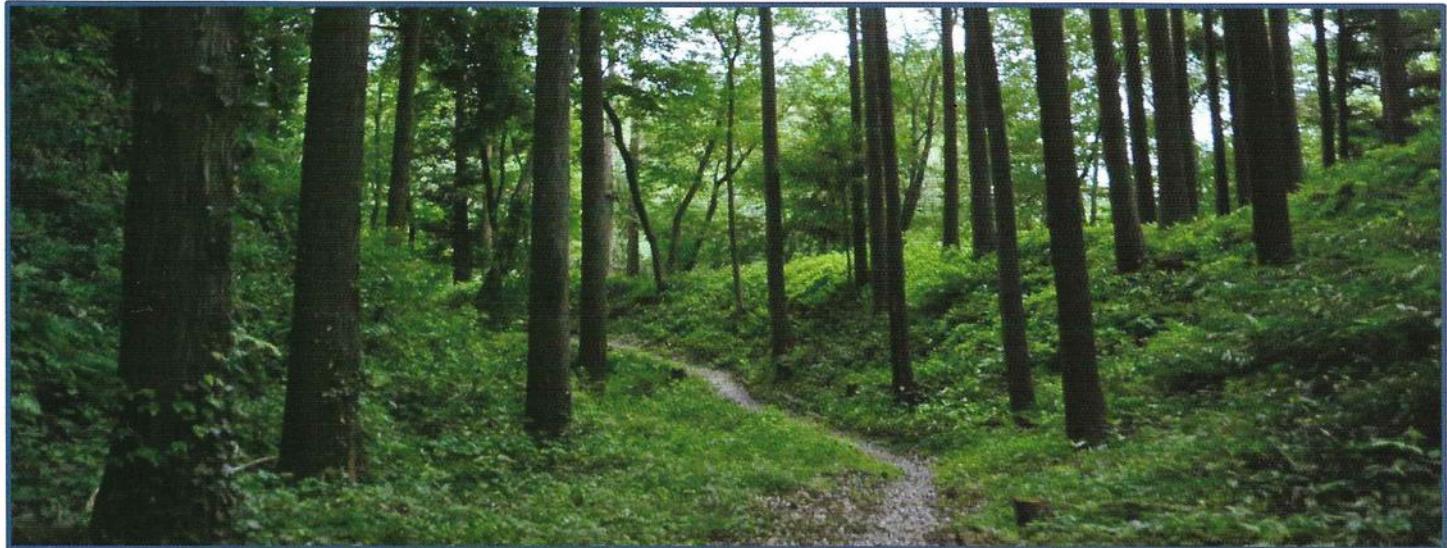


# 額田の城下町

額田城跡保存会 会報部会

## ～目次～

- 額田のお宝（文化遺産）を次世代に 他 1P
- 額田のちょこっと歴史 2P
- 額田城跡に咲く花 3P
- 新たな遊歩道を整備しました 4P



## 額田のお宝（文化遺産）を次世代に

根本 傳次郎

かつて荒れ放題になつていた額田城跡は、遊歩道も整備され市内外からの訪れる方が多くなっています。これは発足以来十五年余にわたる額田城跡保存会の歴代会長さんはじめ会員、郷土歴史家の方々の地道な活動、啓蒙の賜と敬意表する次第です。

額田をこよなく愛する歴代の会長さんを中心とする城跡保存会会員、郷土史家の仲

田先生はじめ関係者の皆さんのが、市や関係機関の方々に理解され遊歩道など城跡環境の整備が進捗し、来城者が多くなっていることは喜ばしい限りです。

額田は歴史の里です。狭い地区には県内最大規模といわれる中世の額田城跡（連郭式平山城）をはじめ先土器、古墳時代の古墳群、神社仏閣など数多くの遺跡、史跡、江戸末期から明治に建造された彫刻物で飾った山車など多くの文化財が残されています。

額田のお宝である遺跡や史跡はじめ有形無形の文化遺産を保存し、後世に伝え行くのは私たち大人の責務と思っています。

私は城跡三郭（三の丸）北側土壘・濠の傍で生まれ育ち、子供の頃の主な遊び場は、城ノ内（城跡）であった。にもかかわらず四十過ぎまで城跡の由緒、歴史に無関心、調べようともせず馬鹿を重ねてしまつたことを後悔しています。チコちゃんに「ボツと、生きてんじやねーよ!!」と叱られちゃいますね。お宝を守り、後世に伝えるに

は額田地区に住まわれる皆さん、地区内の有形無形の文化遺産に関心を持ち、知ることが第一と考えます。

それには私見ですがまちづくり委員会、自治会、町内会と城跡保存会の関係機関が連携し、夫々の役割を担つて地区住民が気軽に、楽しく額田のお宝について見て、学び、体験できる仕組み、場を作ることが必要かと曰ごろ考えております。

簡単なことではありませんが…

## 水戸城歴史ロードのように

宮崎 昇一

先日、水戸城二の丸跡で復元作業が始まつた角櫓（すみやぐら）の上棟式のニユースが流れました。

近くでは茨城国体に間に合わせようと、大手門の復元作業も急ピッチで進んでいるようです。先日現場を見学したときは、柱組みが終わつていて、完成時の威容を感じさせるには十分なものでした。

水戸城の旧本丸から三の丸に至る地区は、元々名だたる学校が建ち並ぶ文教地区でしたが、水戸市が歴史ロードと銘打つて整備に力を入れてきました。白壁に囲まれた道路を歩いていると、本当に歴史の中に、先人の知恵の中に包まれているような気がします。

額田城跡も、来ていただいた方に、歴史と先人の知恵を感じていただけるような場所に作り上げていけたらいいなと思います。

## 額田城のロマン

佐藤 正博

私は歴史に興味があります。額田城城主の小野崎昭道と伊達政宗の関係について興味津々だからです。と言うのも私が生まれた伊達市には、梁川八幡神社と梁川城跡があり、伊達氏の発祥の地です。遠くても額田と伊達市は、ずいぶん昔から繋がりがあったのですから。

私は、五十年前に、福島県の伊達市から水戸市に引越し、三十年前にこの那珂市額田に、新居を構えました。額田は水戸市にも近いし、高速道路も近く意外と便利なところと思っています。なによりも額田の歴史を知り、自分の出身地と、ちょっととした因果関係に触れました。本当に額田と額田城の歴史はロマンを感じます。

私は五年前に、初めて第二自治会の額田城跡の草刈りの作業に参加しました。その後、当時額田城跡保存会会長の原公史さんからの誘いで、現在保存会のメンバーとなっています。一緒にボランティア・管理作業する仲間達も、とても優しい人達で毎回楽しく作業に当たっています。又、最近額田城跡を見学に来た人の駐車場も整備されて充実してきています。

額田には中世、佐竹氏が勢力を張った時代に額田城が築かれていた。

国道349号旧道と主要地方道常陸那珂港山方線とが交差する額田十文字

の南東側、現在は多くが林野と畠になつていて台地上に築かれた平城だが、城跡の下には久慈川べりの低湿地（現在は水田だが当時は沼地）が回り込んでいます。台地続きの北側には、二つの郭（くるわ）が続き、それぞれの周囲には深い堀跡と高い土塁が残つており、正確には連郭式の平山城といえる。

この城は、鎌倉時代の十三世紀中葉、佐竹氏当主の次男が築き、その後、拡張を続け、戦国時代に現在の城跡の規模になつたとみられる。

一地方の小領主の城としては規模が大きいという。城主は額田姓を名乗り、やがて佐竹宗家と対立して応永三十年（一四二三）宗家に攻められ城は落ち、この額田氏は滅ぶ。が、額田城は、それからも城として存続する、佐竹宗家は家臣の小野崎氏を送り込み、小野崎氏が額田城主となり、これが7代続くのである。

これらの史書は、額田城跡本丸入り口の看板や、阿弥陀寺駐車場の看板にその記載が見られる。

われわれ額田城跡保存会メンバーが、城跡の草刈作業を行つていると、たまに

那珂市歴史民俗資料館館長の仲田昭一さんがやってきて、冗談のほかに謎めいたことを話される。

徳川時代、松平頼元が額田地方を治めた当時、額田は二万石あつたとされるが、「額田二万石」といつても、対象地などころは不明、また陣屋は設けられていたとすれば、どこにあつたのか、肝心なことなどは何もわかつていません」と話す。

今後の調査に期待したいものだ。



# 額田城跡に咲く花



九輪草

霜が溶け、春の陽射しと共に、城跡のあちらこちらに次々と花が咲き始めます。おもしろい植物では、浦島草。マムシ草に似ていますが良く見ると花の先から糸のように長い花が垂れています。これがつり糸に見立てられます。

まだまだたくさんの花を見るることができますので、是非、遊歩道を歩きながら可憐な花々と出会ってください。



つわぶき



りゅうきん花



花菖蒲



サルビア



たつなみ草



浦島草



乳母ゆり



あじさい



踊り子草



カラン



ショウジョウゲ



ホタルブクロ



彼岸花



みそはぎ



桜と花壇



白雪芥子



水仙

## 「新たな遊歩道を整備しました」

額田の城下町を発刊して多くの方々に再発見していただき、散策や歴史探訪に来て欲しいと 思います。

今年は、新しく散策路が2本 整備出来ました。交流センターから入り、橋を渡るところから 分岐されて濠の底を歩くルート。以前まで鬱蒼としていた竹藪を開墾しました。もう一方は、本丸下から、観月台に抜ける散策路です。これにより、本丸の周遊コースが改善されていま す。

会長 武藤 博光

交流センターからヒイラギに向かうお堀の部分

本丸入り口から月見台へ向かう部分



### 額田城跡保存会 平成30年度決算

#### 1. 収入の部

項目	金額(円)	摘要
前年度繰越	79,783	
年会費	106,000	1000×106戸
雑収入	5,000	コミュニティ広場出店刃物研ぎ代
合計	190,783	

#### 2. 支出の部

項目	金額(円)	摘要
会議費	10,912	総会、役員会等
事業費		
奉仕作業	29,597	茶、菓子他
機材整備	24,139	ガソリン
整備振興費	11,295	補充用ポール、合板他
会報誌発行	18,360	印刷代他
その他事業費	36,013	園芸資材他
事務費	4,062	消耗品、通信(紙、封筒、切手)
予備費	320	委託事業費不足分
合計	134,698	

#### 3. 差し引き残高

収入 - 支出 = 56,085 円 次年度繰越

### 編集後記

先日、行方市玉造の江戸時代寛文期に建てられた大場（おおば）家住宅に行つてきました。そこには、江戸時代に書かれた水戸藩が支配する地域を記した大きな地図があり、その地図の端に故城のひとつとして「額田城」のことが記されています。

興味ある方は、一度行ってみてはいかがですか。